

I 章 総 論

全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）



教育研究部

佐藤	大樹	山口	学	大野	高志		
中村	和孝	富田	武	中村	満		
牧島	司	丸山	進一	木内	浩司	秋山	拓也

目 次

第一節 目指す生徒の姿、全校研究テーマを据える

- 1 令和4年度の「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」・・・・・・・・・・・・・・・・ 総論 1
- 2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え・・・・・・・・ 総論 1
- 3 「学びを拓いていく生徒」の一例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 総論 2
- 4 令和元年度～2年度の研究を振り返り、令和3年度の研究の重点を据える
 - (1) 技術・家庭科（技術分野）の実践から、令和3年度の研究の重点1を据える 総論 3
 - (2) 道徳科の実践から、令和3年度の研究の重点2を据える・・・・・・・・ 総論 5

第二節 全校研究テーマを具現する

- 1 令和3年度の研究の重点の有効性が示唆された事例（社会科）・・・・・・・・ 総論 7
- 2 令和4年度 研究の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 総論 11
- 3 令和4年度 本校のグランドデザイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 総論 12

第一節 目指す生徒の姿、全校研究テーマを据える

1 令和4年度の「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」

目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）

2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え

学校教育目標「ともに学び 一人となる」の下、日々の教育活動に努める私たちは、令和2年度末、それまでの教育活動において「育っている生徒の姿」と「さらに育てたい生徒の姿」を洗い出し、令和3年度において、本校の「目指す生徒の姿」について検討した。以下はそこで出された意見の一部である。

- ・学ぶことがおもしろい、楽しい、もっと学びたいと願う生徒
- ・解決したことを基に、新たな問いをもつ生徒
- ・学習や人生において、各教科等の「見方・考え方」を、自在に働かせていく生徒
- ・自分の学びを客観的に捉えたり、友の考えを批判的に捉えたりするなど、学びを自覚することができる生徒

なお、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の第1章総説1の(2)③では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進において、次のような生徒の姿が求められている。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする

私たちは、令和3年度において、「目指す生徒の姿」を検討した際に出された上記の姿と、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編において求められている生徒の姿が重なると考えた。そこで私たちは、目指す生徒の姿の具体を「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と捉え、本校が目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」と据えた。

次に、私たちは、「学びを拓いていく生徒」を具現するために令和2年度までの研究を基にして、全校研究テーマについて検討した。そこでは、各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことを「各教科等の本質」、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉えることを職員間で共有した。そして、この二つの本質は、「学びを拓いていく生徒」の具体とした「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」を言い換えるものであること、「各教科等の本質」を目指す中で「学びの本質」が生まれることの2点を確認した。そこで、私たちは、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、その具現を図ることとした。

3 「学びを拓いていく生徒」の一例

「学びを拓いていく生徒」の具体的な姿を、令和2年度の数学科と英語科の実践から、振り返った。

数学科「拓げて発見!? 図形の性質」・3年(令和2年・12月)では、図形と線分の比についての性質を明らかにする学習を構想した。N生は、平行線と線分の比の関係について理解するだけではなく、図形の条件を変えて発展的に考察しながら、図形がもつ性質や構成要素の関係などを統合的に考察することができた(図1①)。

仮定	結論	図
台形ABCDで、AB、CDの中点をE、Fとて、EFを結ぶと	$AD \parallel EF \parallel BC$ は平行	
台形ABCDで、AB、CDを等しい長さの点とE、Fとて、EFを結ぶと	$AD \parallel EF \parallel BC$ は平行	

図1 N生がまとめたワークシートの一部

そして、N生は、単元の学習を振り返って、図形の性質を構成要素に着目して捉えることの大切さを実感した。N生は、単元の学習を通して深めた学びを、図形だけのものではなく、「数学的な見方・考え方」として捉え、

この単元を通して、自分が得たものは、発展的に考える思考です。いずれの命題も、「中点連結定理」という一つの定理から発展させたものです。一つのことを、それとして捉えるだけでなく、その背景にある様々な要素を含めたものとして捉える力を、この単元で養うことができてました。

これは、広く見れば図形だけでなく数学全体に共通していることだと思っています。これから定理を学習した際は、このことを決して忘れず、学習していきたいです!

図2 N生の単元の振り返り

今後の学びの中で活用していく有用性を実感した(図2①)。

英語科「英語で詩を書こう」・3年(令和3年・1月)では、ものや動物視点の詩について、自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりある文章を書く学習を構想した。K生は、自身もっていたコンパスの視点から、コンパスを“we”、コンパスに付いている針を“T”として、詩を書き(図3)、単元の学習を振り返った(図4)。

K生は、読み手(学級の友)に自分が書いた詩のメッセージを届けるために(図4①)、これまで

The Love Letter from a needle to a pencil

we two are one
but I am sharp
and you are sometimes blunt
we two are one
but I am fixed
and you are sometimes removed
we two are one
but I don't get old
and you are sometimes thrown away
I wish we could live together forever
but I know that it is an impossible dream

図3 K生が書いた詩 (ロイロ・ノート)

自分のイメージを読み手聞き手に届けるため、様々な文法や表現を用いた。特に詩は短い文章で伝えたいといかないのが大変だ。短い複数ある英語の表現の中にも、どれが最も適しているか、状況やイメージを伝えられるのか、リズムが良くなるのかなど多くの視点も選んでいくことができた。友達や詩などから、英語の音や文の構成によるリズムについても考えることができ、英語という言語そのものがもつおもしろさや味わいを感じたと思う。中学校では、多くの文法事項を学習したので、文が長くなりすぎて、スピーチを話す時に短文を効果的に用いていくことで、伝えたいことがより心に届くと感じた。

図4 K生の単元の振り返り

に学習した英語での表現、音のリズム、韻の踏み方に着目して、自分が伝えたいメッセージに適する表現を用いて、詩を考えた(図4②)。その中でK生は、英語だからこそ、表現することができるおもしろさを感じたり、中学校の学習で学んだことをスピーチなどで自分の考えを表現する際にも、短文を効果的に活用したりしようとした(図4③)。

本校では、数学科でのN生や、英語科でのK生の姿を「学びを拓いていく生徒」の一例と捉えた。このような生徒の姿を目指し、各教科等の学習を行っていくことで、「学びを拓いていく生徒」の具現につながるのではないかと考え、具体的にどのような手立てを位置付けていけばよいか、令和2年度の実践を振り返り、研究の重点を見いだしていこうと考えた。

(総論 3)

4 令和元年度～2年度の研究を振り返り、令和3年度の研究の重点を据える

令和元年度～2年度、本校の全体の研究として、多様に変化する社会を生きていくための生きる力を育むために、学習の基盤となる資質・能力である「問題発見・解決能力」の育成を目指した。また、各教科等の学習においては、各教科等のそれぞれを学ぶ意義まで見いだす本質的なものとなる必要があると考え、全校研究テーマを「本質に迫る教科学習の在り方—問題発見・解決の過程における生徒の姿に焦点を当てて—」とした。ここでは、全校研究テーマの具現を目指し、次のように研究の重点を据え、研究を進めた。

研究の重点1 (令和元年度～2年度)

単元や題材の学習問題の解決(達成)を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付ける。(単元や題材)

研究の重点2 (令和元年度～2年度)

思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付ける。(本時)

※ここでは、単元や題材の学習問題、問い、見通し、検討を次のように定義している。

- ・「**単元や題材の学習問題**」とは、単元や題材を貫き、解決したり達成したりしていく事柄である。これは、単元や題材の導入時に生徒自身が抱く疑問や願いから設定されるものとする。そのため、単元や題材の学習問題が疑問から起因したものである場合は解決を使い、願いから起因したものである場合は達成を使うこととする。
- ・「**問い**」とは、学習の過程の中で生徒に生まれた新たな疑問などを基に設定されるものである。※本研究に関わって社会科においては、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編に準じて「小単元の学習問題(問い)」として記述している箇所もある。
- ・「**見通し**」とは、自らの学習状況を把握し、学習の進め方などについて、単元規模、又は一授業規模で明確にすることである。
- ・「**検討**」とは、比較したり、関連付けたり、多面的・多角的に考えたりすることなどである。したがって、各教科等の学習内容に応じて何をどのように検討するのか明らかにすることが大切である。

(1) 技術・家庭科(技術分野)の実践から、令和3年度の研究の重点1を据える

技術・家庭科「一歩進め、アルゴリズム更新!」・2年(令和2年・7月)では、総合的な学習の時間で自分たちが追究を進めてきた学習内容を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツ(チャットボット Pro)を使用し、最適な情報発信プログラムを制作する学習を構想した。ここでは、複数の視点(「処理の簡潔さ」「使いやすさ」「分かりやすさ」「不具合」)を基に、身近な人への実装を繰り返しながらプログラムを検討する活動を位置付けた(題材)。そして、複数の視点に折り合いを付けながら、プログラムを再検討する活動を位置付けた(本時)。

題材の学習問題「どのようなプログラムにすれば、適切に多くの人に情報を伝えられるのだろうか。」の解決を目指し、S生はプログラムの制作を進めていく際の視点(「処理の簡潔さ」「使いやすさ」「分かりやすさ」「不具合」)を基に、信州大学教育学部技術研究室の学生からの評価を整理し、プログラムの改善のための具体策を確認し、「処理の簡潔さ」に課題意識をもった。S生は、その後、一般の大学生や中学1年生への実装に向け、フローチャートを用いてプログラムを再構想し、デバックがしやすいように、メーカーの立場からプログラムを改善及び修正する方向性を見いだした。S生は、他班の友にプログラムを実行してもらうことで、プログラムに「不具合」があることを確認した。その後、S生は、「不具合」の解消や、他分岐へのジャンプ命令の補充といった、メーカーの立場からプログラムの改善及び修正を行い、一般の大学生への実装を行った。一般の

大学生からのレビューや利用履歴等を確認したS生は、自分たちの伝えたいことが伝えきれていないことや、データベース検索からのキーワード検索の少なさに課題意識をもった。そして、キーワードを一覧表示にして見せる別の班の方法を取り入れることを提案した友の考えを聞いたS生は、前時にその班のプログラムを実行した時に感じたユーザーとしての「使いやすさ」を想起し、静止画やキーワードの一覧表示といった、ユーザーの立場からプログラムを改善及び修正する方向性を見いだした(図5)。

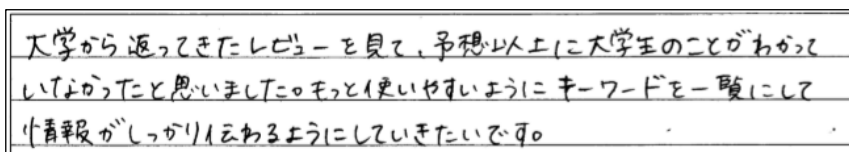


図5 S生の振り返り

さらに、中学1年生への実装から、「使いやすさ」と

「分かりやすさ」に課題があることを確認したS生は、ローマ字表を作って静止画で出力するという友の提案に賛同した。そして、ユーザーを最優先に考えるS生は、「処理の簡潔さ」や「不具合」といったリスクがメーカー側に生じることは仕方がないと考えた。しかし、全体共有において、ユーザーとメーカーの双方の立場を大切に考える他班の考え方に触れたS生は、データとプログラムを分離してデータベースで処理していくことによって、メーカー側のリスクを軽減することができると思った。S生は、アルファベット入力や静止画をプログラムに取り入れて(図6①)、「使いやすさ」や「分かりやすさ」を上げるだけでなく、データとプログラムを分離させて「処理の簡潔さ」や「不具合」のリスクを軽減させるという、ユーザーとメーカーの双方の立場に立ったプログラムの改善及び修正の方向性を見だし(図6②)、改善及び修正へとつなげていった(図7①)。

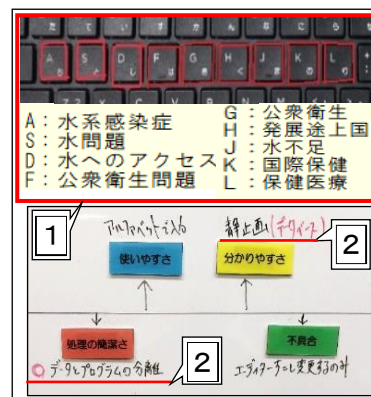


図6上 S生の班のキーワード検索
下 S生の班の視点の比重

中学校学習指導要領(平成29年告示)第1章総則第3教育課程の実施と学習評価の1(1)では、「生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること」と示されている。

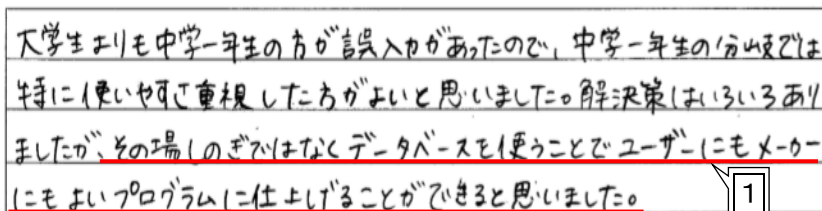


図7 S生の振り返り

この視点から技術・家庭科の学習過程を振り返ると、S生は、「技術の見方・考え方」である「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、(安全性、環境負荷や経済性等)に着目して技術を最適化すること」を働かせ、最適な情報発信プログラムを制作している姿が伺える。

このことから、単元や題材の学習問題の解決(達成)を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付けたり(単元や題材)、思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付けたりすること(本時)で、生徒が、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、資質・能力を身に付けていくことにつながることが見えてきた。

そこで、「学びを拓いていく生徒」を具現するために、令和2年度までの研究の成果の上に立ち、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにすることを研究の重点に据え、各教科等においての手立ての在り方を究明していく。

以上のことから、令和3年度の研究の重点1を次のように据えた。

研究の重点 1 (令和3年度～)

問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする。

単元や題材の学習問題の解決(達成)を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付ける(単元や題材)。思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付ける(本時)。

(2) 道徳科の実践から、令和3年度の研究の重点2を据える

道徳科「私の生きる道」・3年(令和2年・7月)では、自分の弱さと向き合いながら、よりよく生きる喜びを見いだす学習を構想した。そこでは、社会科の歴史分野の学習と道徳科の学習とを関連させた題材展開を位置付けた(題材)。そして、登場人物の立場になって役割演技を行い、それぞれの心境に自我関与させながら語り合う活動を位置付けた(本時)。

まず、社会科の学習では、「第二次世界大戦と人類への惨禍」について扱い、小単元としてゼロ戦パイロットとして生き抜いた原田要氏を通して、当時の日本社会について追究した。K生は、原田氏が戦中「自分の死に方は自分で決める」という決意の下、特攻隊に参加せず、ゼロ戦パイロットとして日本のために人々を殺めてきたこと、戦後は敗残兵として占領軍の監視下に置かれながら苦しい生活を送らざるを得なかったこと、多くの人を殺した罪の意識に苛まれながら生きてきたことなどを学んだ。

その後、道徳科の授業〔内容項目D-(22)〕では、役割演技後にグループで語り合った後、中心発問「謝罪を通して、コペルが手に入れたものは何だろう」について考える場面で、K生は、友人へ謝罪する前の気持ちから、勇気を出して謝罪し終わるまでのコペルの心情をまとめた。そして、自らまとめたコペルの心情と役割演技を終えて友と語り合ったこととを関わらせ、「自分の失敗は自分で反省してけりをつけるべき」や「(失敗しても)やり直せば前の自分よりも成長できる」など、コペルが手に入れたものを「一段と成長したコペル君」と考えた。

本時を振り返り、K生は、「よりよく生きること」とは「自分が一生懸命になれるものをもって生きること」と捉えていたが、全体共有での友の考えを聞き、「失敗を経験し、それを自分の力で乗り越えていくこと」とであると捉え直した(図8①)。K生は、自分がしたことについて、ただ謝りたいという思いを、自分だけの勝手な思い(自分の弱さ)として捉え、友のように、たとえ許されなくても

「けじめ」として謝罪することで、弱さと向き合う強さを手に入れ、それがよりよく生きることにつながっていくと考えた(図8②)。K生は、コペルが謝罪を行う場面

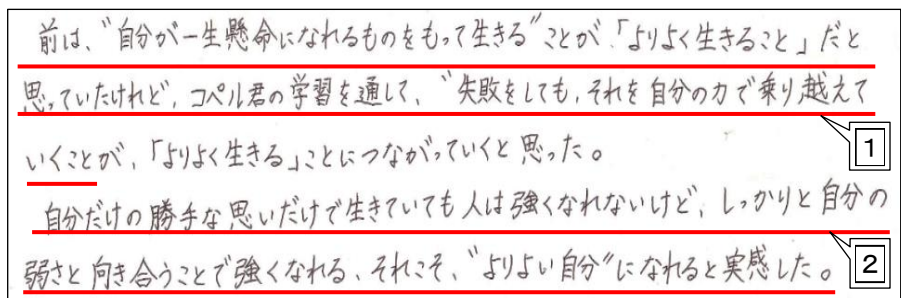


図8 K生の本時の振り返り

の役割演技を行い、それぞれの立場の心境に自我関与させながら、友と語り合うことを通して、自分の弱さと向き合い、よりよく生きる喜びを捉え直した。

社会科の歴史分野の学習と道徳科の学習を終え、教師は、この二つの学習を関連させた題材展開を振り返って、考えたことをまとめる場を設けた。K生は、原田氏もコペルも、それぞれ乗り越えてきたものは異なるが、自分の弱さと向き合いながら、よりよく生きようとする生き方が似ていることを実感した(図9①)。そして、自分が失敗を乗り越えた経験を想起したK生(図9②)は、原田氏、コペル、自分自身の姿を重ね合わせ、同

じ「よりよく生きる」にも、様々な姿があることを捉えつつ、三人に共通する点として、最も難しいことは、できない自分に気付くこととそれを直視することだと考えた(図9③)。K生は「よりよく生きる」とはどのようなことなのか、より深く考え、自分の生き方と向き合おうとすることができた(図9④)。

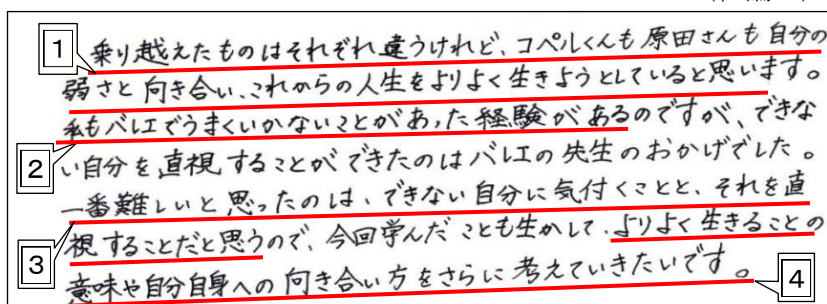


図9 K生の振り返り

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編第3章第1節3「育成を目指す資質・能力」では、学びに向かう力、人間性等を涵養することについて、「生徒一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる『メタ認知』に関わる力を含むものである。」や「情意や態度等を育ていくためには、前述のような我が国の学校教育の豊かな実践を活かし、体験活動を含めて、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。」と示されている。

この視点から、道徳科の実践を振り返ると、K生の姿は学んだことを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりして学び続けようとする姿であり、「学びを拓いていく生徒」の姿の具現につながるものであると考えた。

そこで、単元や題材の終末に学んだことを振り返る場を工夫し、「学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする」ことを重点に据え、その手立てを探っていくこととした。単元や題材の学習において、「何のためにこの学習を行っているのか、そこにはどのようなおもしろさや社会とのつながりがあるのか」などを、生徒が自覚することで、学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く取り組む中で、自己の学習を振り返って、次につなげるなど、生涯にわたって学び続けることにつながるのではないかと考えた。そこで、「学んだこと」だけではなく、「学んでいること」も付け加えて、研究の重点2を次のように据え、①～③のいずれかに関わった手立てを位置付けていくこととした。

研究の重点2(令和3年度～)

学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする。

- ①「分かったことや分からなかったこと」「疑問に思うこと」「さらに生かせそうなこと」など、振り返りの視点を基に、単元や題材を振り返る場を位置付ける。
- ②単元や題材の初めの姿と終末の姿を比較し、分かったことやできるようになったことと、その理由(学習過程)を振り返る場を位置付ける。
- ③単元や題材を通して学習したことを生かすことができるような課題に取り組んだり、課題に取り組んだ後に、単元や題材で学んだことを振り返ったりする場を位置付ける。

研究の重点2の生徒の姿を見取るためには、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、各教科等の資質・能力を身に付けていることが重要となる。学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるような手立てを位置付けたとしても、そもそも学んだことが曖昧であれば、それを他に活用したり、新たな問いをもったりすることも難しくなる。研究の重点2は、研究の重点1と大きく関わっており、研究の重点1と研究の重点2の二つの重点を具現していくことで、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考える。次節では、令和3年度の社会科の実践から全校研究テーマを具現する生徒の姿について述べていく。

第二節 全校研究テーマを具現する

1 令和3年度の研究の重点の有効性が示唆された事例（社会科）

社会科「ラーメンを通して捉える、世界各地における人々の生活」・1年（令和3年・4月）では、世界各地における人々の生活の特色を捉える学習を構想した。そこでは、令和3年度の研究の重点1に関わる手立てとして、「単元の追究課題」を設定し、世界各地の「気候や地形」「食文化」「宗教・歴史との関わり」「住居の造り」などの必要な情報をまとめた「リサーチシート」を基に、そこに住む人々に受け入れられる「ラーメンの食材」と「店舗の造り」を検討する展開を位置付けた。

単元の学習問題「世界各地の人々の生活が、場所によって異なるのはなぜだろうか。」の解決を目指し、場所によって人々の生活が異なる要因を追究するために、教師は「単元の追究課題」

（図10）を提示した。T生は、様々な気候帯に属する5か国にラーメン店を出店するために、「気候や地形」、「食文化」、「宗教・歴史との関わり」、「住居の造り」について、教科書、地図帳、資料集などを使い、「リサーチシート」に必要な情報をまとめ、世界の

人々の生活の特色を概観した（図11）。

グループで分担し、サウジアラビアに出店することになったT生は、「リサーチシート」を見返し、サウジアラビアの人々に受け入れてもらうためには、どのような「ラーメンの食材」がよいか考えた。T生は、「食文化」にまとめた情報（図11①）を基に、サウジアラビアが手食文化であることから、手で食べやすいように短い麺がよいと考えた。また、「宗教」と「食文化」にまとめた情報（図11②～④）を基に、イスラム教徒は豚肉を食べることができず、羊肉やラクダ肉を食べる生活習慣があることから、ラーメンのトッピングには、羊肉やラクダ肉がよいと考えた。しかし、T生は、肉以外のトッピングや、スープの内容を決め出すことができなかった。その後、T生は、「店舗の造り」について考え、「宗教」にまとめた情報（図11③）を基に、店の入口も、男女別々にした方がよいと考えた。

教師は、「友は、スープをどのような食材で作ったのか聞いてみたい。」というT生の振り返りを全体で共有し、学習課題『リサーチシート』を基に、『ラーメンの食材』と『店舗の造り』をグループ毎に検討しよう。」を据え、サウジアラビアに出店する4人グループで「ラーメンの食材」と「店舗の造り」を検討する場を設けた。T生は、グループで次のように話し合った。

- | | |
|-----|--|
| M生1 | : 私は短いだけでなく、太い麺がいいと思います。手食文化なので、普段使い慣れないフォークを使う時、太いほうがからみやすいと思うからです。 |
| T生2 | : 私もMさんと同じく、麺を短くして食べやすくしたらいいと考えました。太さまでは考えていませんでしたが、普段手で食べている人たちがフォークを使うなら、食べやすいように太いほうがいいかもしれません。 |
| I生3 | : では、麺は短めで太いものでいいですね。 |
| T生4 | : スープについてはどうですか。私は何を使ってどのようなスープを作ったら |

あなた達は、世界各地でラーメン店を展開します。出店するのはイタリア、シベリア、サウジアラビア、フィジー、ペルーの5か国のいずれかです。それぞれの場所の人々に受け入れられるラーメン店にするために、その場所で手に入る食材を使い、「その国の人々にとって食べやすい『ラーメンの食材』（麺・トッピング・スープ）」と、『店舗の造り』を提案してください。

図10 単元の追究課題

開店する国	気候や地形（自然環境）	食文化（収穫できる食材や特産品・好み）	宗教・歴史との関わり	住居の造り
サウジアラビア	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥した地域（砂漠） 年平均気温…26.6℃ 年間降水量…140mm 標高…635m （砂漠気候） 	<ul style="list-style-type: none"> 手食文化 「シマク・ラクダ」 「なつめやしの実」 「羊・にんじんと牛肉」 	<ul style="list-style-type: none"> イスラム教 創始者…ムハンマド スンナ（スンニ派） シーア派（少） 女性に肌着かき着る 写真×オータ多妻 アルコール禁止 	<ul style="list-style-type: none"> 土の家が大きい 「まどが小さい」 「レンガ葺り」の家

図11 T生のリサーチシートの一部（サウジアラビアについての情報部分）

- よいのか分かりませんでした。みんなはどう考えましたか。
- M生 5 : サウジアラビアではラクダの乳を飲むので、ラクダの乳を使おうと考えました。そこに、サウジアラビアでよく採れるヤシの実の液を入れましょう。
- I生 6 : 私はスープの量について考えました。サウジアラビアは床で食べる文化なので、こぼさないようにスープの量を少なめにしたらよいと思います。
- S生 7 : 私は、砂漠気候で暑いから、冷たくてさっぱりした味にした方が、みんなが食べやすい味になると思います。
- T生 8 : 食文化だけではなく、気候や植生についても考えれば、使う食材だけでなく味付けやスープの量も工夫できそうですね。
- I生 9 : トッピングについてはどうしますか。私は、宗教の関係で食べられないものがあるので、選べるようにしておいたらよいと思います。
- S生 10 : Iさんが選べるようにすると言っていますが、Tさんはどう考えましたか。
- T生 11 : サウジアラビアはイスラム教の国なので、豚以外の肉がよいのではないかと思ったので、羊とラクダの肉にしました。
- M生 12 : 私もIさんが言うように、選択制にしてもよいと思います。とうもろこしやヤシの実、ナツメなどが採れるので、それらをトッピングとして選べるようにしたらどうでしょうか。Tさんが言うようにラクダの肉を使えばよいと考えていましたが、サウジアラビアではラクダを移動に使っているため、食用に多くを使ってはいけないのではないかと思い、私はやめました。
- (その後、「店舗の造り」についても検討し、話し合いを終えた。)

T生は、友と検討する中で、麺の長さだけではなく、フォークで食べやすくするために、太さにも注目したM生の考え (M生 1) を聞き、手食文化の中で生活する人々が、ラーメンをどのように食べるのかなど、その地域の人々の暮らしを想像して、さらに考える必要があることに気付いた (T生 2)。そして、スープの内容について友に考えを求めたT生 (T生 4) は、「食文化」と「自然環境 (植生)」に着目したM生の考え (M生 5)、「食文化」に着目したI生の考え (I生 6)、「自然環境 (気候)」に着目したS生の考え (S生 7) を聞き、「食文化」だけではなく、「植生」や「気候」にも着目して考えることでスープなどの「ラーメンの食材」を決めていくことができると考えた (T生 8)。T生は、友の考えを参考に、スープの内容をワークシートにまとめることができた (図 12 ①)。さらに、ラーメンのトッピングについて話し合う場面で、T生は、「宗教」に着目し、羊とラクダの肉を提案した (T生 11)。しかし、ラクダは砂漠での大事な移動手段であるという人々の生活に配慮し、ラクダの肉を使うことに反対するなど、「食文化」、「宗教」、「自然環境」の視点を合わせた考え (M生 12) を聞き、最終的には、少量のラクダ肉を用意

	提案	根拠
ラーメンの食材	麺 ○短め ○太さ ○米で作る ○太い	→ 手で握ることがあり、長いと食べやすい。 → 手食文化 → 小麦が採れているため。 → 手でつかみやすいようにするため。
	トッピング ○選べるようにする ② ○とうもろこし ○やしの実 ○ナツメ ○羊とラクダの肉	→ 宗教などがあるため、個人で選べる方がよい。 → 作っているらしいから。 → とれるから。 → ラクダや羊は移動に使われ数が少ないため → イスラム教で豚以外の肉はOK。なのでそれ以外の肉でよく食べられる。
	スープ ○量... 少なめ ○さっぱり (冷たくする (さっぱり)) ○ラクダの乳 ○やしの実の液 ○ナツメ	→ 手で食べるため。 → 暑い気候だから。 → ラクダの乳を飲むらしいから。
	店舗の造り ○レンガ造り ○店の入り口 → 男女別々 ○少し風通しの良い ○まどが小さい ③	→ 日本しレンガで造られた家 → 使っていると思ふから。(ないおがある・地域に多い家) → 公共の場所などでは一般的であるため。(宗教) → サバク気候だから。 → 暑いから。

図 12 T生のワークシート

(総論 9)

し、選べるようにした (図 12²)。さらに、友と「店舗の造り」を検討する中で、砂漠気候で植物が育ちにくいサウジアラビアでは、現地で採れる土から作られるレンガを使い、暑さや砂埃をしのぐために、風通しをよくしたり、窓を小さくしたりする構造にするなど、「自然環境 (気候)」と「住居の造り」を関連させた考えを聞き、自分の考えをまとめた (図 12³)。その後、T生は、他の場所の「ラーメン店」と「店舗の造り」を検討した友とまとめた内容を発表し合った後、単元の学習問題に対する自分の考えをまとめた (図 13)。

気候や地形によつて、できる作物や好まれる味も違う。宗教によつて食べられないものなどもあるから、また、食べ方によつて、食べやすい形などもちがってくるから。住居も、気候に合わせた工夫をしている。場所によつて生活がちがうのは、気候や地形、宗教などに合わせて、工夫をしているからだと思います。

図 13 T生の単元のまとめ

このようなT生の姿を「地理的な見方・考え方」を働かせ、人々の生活が営まれる場所の自然的条件や社会的条件を関連付けて、世界各地における人々の生活の特色を多面的・多角的に捉えることができた姿と捉える。

単元の終末、令和3年度の研究の重点2に関わる手立てとして、本単元で学んだことや考えたことを振り返った後、別の場所に出店するラーメン店について自分で資料を探してレポートにまとめる場を位置付けた。

T生は、本単元を振り返り、その場所で見られる「地形」、「気候」、「植生」などの自然的条件や、「文化」、「宗教」などの社会的条件など、考える際の着目した視点を明確にして考えることで、地域の人々の生活を多面的に捉えることができることを自覚できた (図 14¹)。そして、着目した視点が、その場所に暮らす人々の生活にどのように影響を与えているかを考えることが、世界各地における人々の生活の特色を捉えるために必要であると考えた (図 14²)。そして、本単元を通してこのように考えたことを、これからの地理の学習に生かし、世界の人々の生活や多様性を理解していきたいと考えた (図 14³)。その後、T生は、北京で受け入れられる「ラーメンの食材」を検討する際、「食文化」、「気候」、「宗教」に着目し、北京でよく使われている鶏を使うとともに、宗教上の理由から鶏を食べることができない人のことについても考えた (図

ラーメン作りを通して、その土地の気候や文化など、各地域の特徴をいろいろな面から捉えることができるようになった。気候という一つの面から見れば似ていると思う地域でも、文化や宗教など別の面から見ると全く違っていたりして面白かった。 1

宗教上の問題で、男女など、色々な立場によって禁止されたり、制限されたりするものがあるから、そういう人たちにも受け入れられるようにするにはどうしたらよいか考えることもできた。 2

その土地の地形や気候に左右された人々の行き来や、育つ食物によって、食生活や考え方から、文化が作られていくのだと思う。これからの学習にも、このような見方を生かして、より世界の地域への理解を深めていきたいと思う。 3

図 14 T生の振り返り (最終時、全体で共有するためにロイロノートに記入)

	提案	根拠
食材	麺 小麦粉の中太麺 1	北京料理のジャージャー麺が、中太の麺で、刀削麺が、小麦粉を使った麺のため。
	トッピング ①チャーシュー ②ネギ ③ニンニク ④卵 2	①…北京料理では豚、鶏がよくつかわれる。 ②…北京では冬の寒さに耐えるために、ネギを使った料理が多いから。 ③…②と同じで、北京でよく使われるから。 ④…宗教上の理由で肉類などが食べられないという人も、満足感を得られるようにする。 ※①～④の中からトッピングを選べるようにする。 3
	スープ 醤油ベースで、こつてりとした、濃いスープ	北京料理がこつてりとした、濃厚な味つけのものが多いから。また、北京料理では醤油や味噌がよく使われるから。
店舗	・木造 ・屋根はレンガ ・のれんに、「拉麺」 4	北京では高層ビルが立ち並ぶ一方で、庶民の家として木造で屋根はレンガの家が多いそうなので、他の家と同じように、地域の人に好まれる造りにする。現代的な文化の中で、逆に伝統的なのが新しい。

図 15 T生のレポート (最終時、全体で共有するためにロイロノートに記入)

15[1]～[3])。「店舗の造り」については、地域の人々に受け入れられるように、北京の伝統的な民家の造りに決めることができた(図 15[4])。

このようなT生の姿を本単元で学習したことの有用性を自覚し、人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けることを理解し、今後の地理の学習に活用していこうとすることができた姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。

社会科の実践から、研究の重点1について、問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする手立てとして、単元や題材の学習問題の解決(達成)を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付けたり(単元や題材)、思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付けたり(本時)することで、各教科等で目指す資質・能力を育成していくことの有効性が改めて示唆された。

研究の重点2について、単元を通して学んだことや考えたことを振り返ることで、本単元で学習したことの有用性を自覚し、今後の地理の学習に活用していこうとする姿が見られた。社会科の実践では、これに加え、本単元で学んだことを活用し、新たな課題に取り組み、T生は本単元で学んだことを活用し、「地理的な見方・考え方」を働かせ、自分の考えをレポートにまとめることができた。このようなT生の姿から、学んだことや学んでいることの意味や価値を自覚することができるようにする手立ての一つとして、単元や題材の終末に、学習したことを生かすことができるような課題に取り組んだ後に、単元や題材で学んだことを振り返る場を位置付けることの有効性が示唆された。

令和3年度の研究の重点1及び研究の重点2は、「学びを拓いていく生徒」の育成を支える重要な手立てとなることが見えてきており、令和4年度も引き続き、別の単元や、他教科・領域においてもその有効性を探り、手立ての質的向上を目指していく。

(総論 11)

2 令和4年度 研究の全体構想

(1) 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

(2) 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

(3) 研究の重点

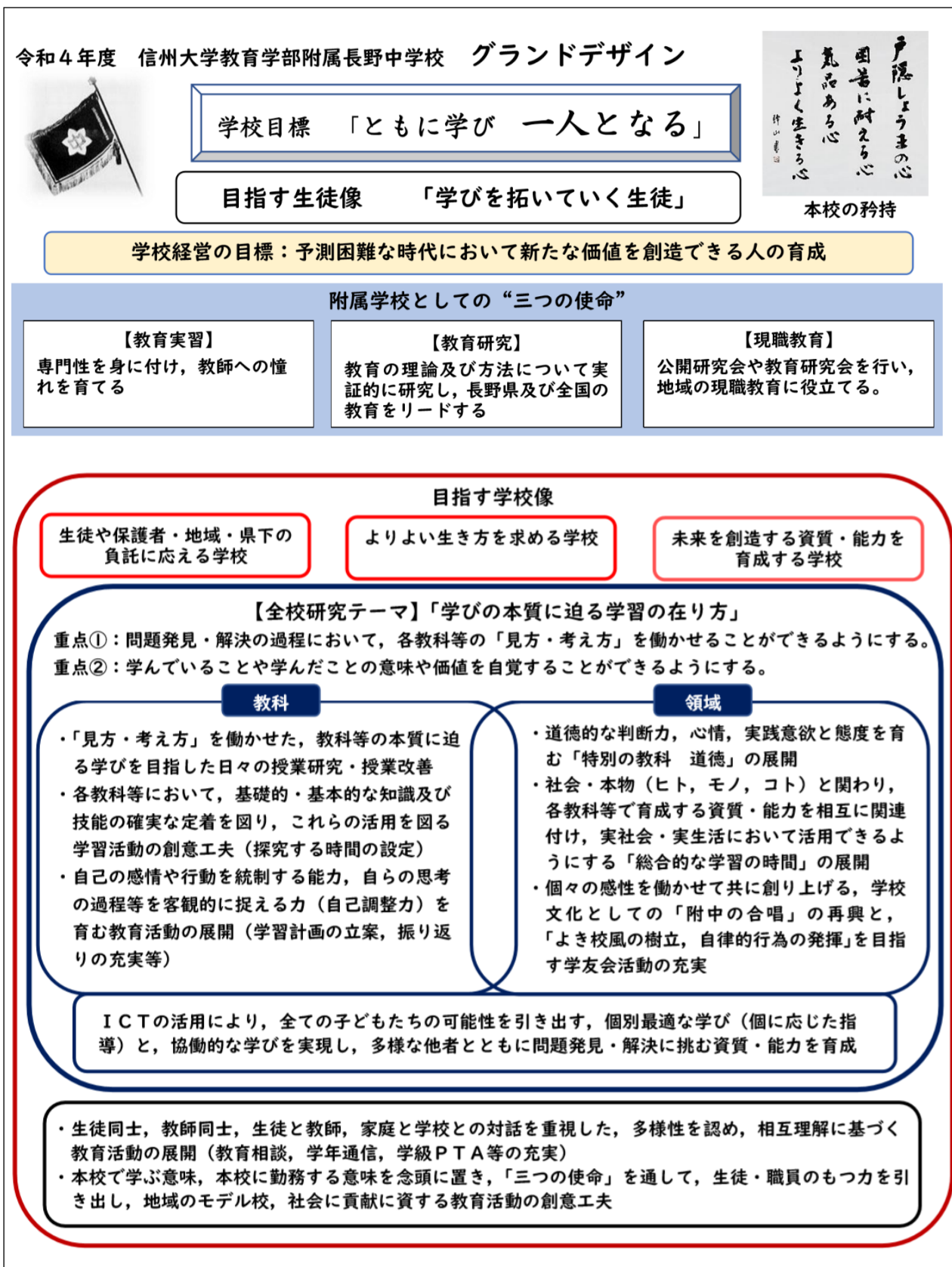
重点1 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする 単元や題材の学習問題の解決（達成）を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付ける（単元や題材）。思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付ける（本時）。
重点2 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする ①「分かったことや分からなかったこと」「疑問に思うこと」「さらに生かせそうなこと」など、振り返りの視点を基に、単元や題材を振り返る場を位置付ける。 ②単元や題材の初めの姿と終末の姿を比較し、分かったことやできるようになったことと、その理由（学習過程）を振り返る場を位置付ける。 ③単元や題材を通して、学習したことを生かすことができるような課題に取り組んだり、課題に取り組んだ後に、単元や題材で学んだことを振り返ったりする場を位置付ける。

(4) 各教科等で育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとする力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	(技術分野)社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野)生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方
総合的な学習の時間	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	自ら課題を設定する力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学校生活をよりよくするための課題を見だし、解決する力を高める学習の在り方

3 令和4年度 本校のグランドデザイン

本校では「全校研究テーマ」を中心に、すべての教育活動を通して「学びを拓いていく生徒」の育成を目指し、グランドデザインを生徒、保護者、教職員で共有している。



参考文献

- 石井英真. (2020). 「授業づくりの深め方」 ミネルヴァ書房
- 群馬大学共同教育学部附属中学校. (2021). 「研究紀要」
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2020). 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 中学校. (各教科・領域)
- 信州大学教育学部附属長野中学校. (2006～2016). 「研究紀要」
- 信州大学教育学部附属長野中学校. (2020). 「研究紀要」
- 田中耕治編著. (2020). 「資質・能力の育成と新しい学習評価」 ぎょうせい
- 田中耕治編著. (2020). 「各教科等の学びと新しい学習評価」 ぎょうせい
- 田中耕治編著. (2020). 「評価と授業をつなぐ手法と実践」 ぎょうせい
- 野田敦敬、田村学編著. (2021) 「学習指導要領の未来」 学事出版
- 文部科学省. (2017). 「中学校学習指導要領」
- 文部科学省. (2017). 「中学校学習指導要領」解説. (総則、各教科・領域)